

## 令和4年度 第1回学校関係者評価委員会記録

- 1 日時 令和4年6月29日（水） 10:00～11:30
- 2 場所 加世田高校会議室
- 3 出席者 外部評価委員5人（他校種関係者・保護者・卒業生等）  
本校委員7人（校長，教頭，事務長，教務主任，生徒指導主任，進路指導主任，保健主任）

### 4 内容・会順

- |         |                |           |
|---------|----------------|-----------|
| ①開会のことば | ④本会の趣旨について     | ⑦質疑応答・その他 |
| ②校長挨拶   | ⑤本校の概況について     | ⑧閉会のことば   |
| ③出席者紹介  | ⑥学校評価アンケートについて |           |

### 5 委員からの質問・意見等の概要（●は、本校職員からの回答等）

○東京芸術大学に合格者が出ているが、芸術系大学等への進学希望者に対する指導体制について教えてもらいたい。

●芸術の科目を選択として3年次まで準備しており、希望する生徒は3年間を通じて音楽・美術・書道いずれかの授業を受けられる体制はある。しかし、全員がその形で腕を磨いているわけではなく、中には、自身で校外でレッスンに通い、進路を切り開いていく生徒もいるため、実際には生徒の目指す場所や適性、生徒・保護者の意向などによりケースバイケースの対応を取っている。

●また、出願資格が「全国規模のコンクールでの入賞実績」という大学も中にはあり、芸大を目指す高校生には、幼少期から定期的に東京まで行ってプロ指導者のレッスンを受けているような生徒も少なくない。それでも東京芸大にたどり着けるのは、その中でもごく一握り。本校から東京芸大への合格実績が、昨年合格者が出るまでは過去30年遡っても一例もないことも含め、実際高校での指導だけでそのレベルに到達できるかと考えれば、本校に限らず、中学生に「あの高校に行けば東京芸大に行けるだけの指導が受けられる」という説明は、少し言い過ぎというのが現実かもしれない。

○難関大学への合格実績は本当に素晴らしいものがあると思う。このように学習の面では塾などに通わずとも、学校での指導で十分と考えて良いか。実際、塾に通っている生徒はいるか。

●大学受験に向けた学習指導は、授業・補講・個別指導により志望校を問わず十分可能である。通塾率は、各学年10人弱程度いるのは把握しているが、ほとんどは自習塾のような形態であると推察される。実際、高校生（大学受験）向けに授業の形態をとっている塾に通っている生徒は、そういった場所が地元にあるかも定かでなく、通っている生徒はいても若干名ではないかと推定される。

○授業に対する生徒からの評価に、ALやICT活用に関する事など、さらに具体的な項目を取り入れれば、課題が明確になり、改善点が捉えやすくなると思う。

●職員間の相互授業参観を年間通じて行うなど、職員同士で互いに刺激し合い、授業のレベルを上げる手立ては取っているところである。また、職員は授業をとおして毎日生徒と向き合い、生徒の実態や反応、取組の状況、理解度・定着度などを日々観察して授業の方針を調整している。現状では、アンケート形式で生徒に授業の中身を評価させることは行っていないが、こうした御意見は今後の授業改善の参考にさせていただきたい。

○南さつま市民の学校への思いは、校種を問わず非常に強い。地域行事やボランティア活動などにさらに積極的に参加し、より一層地域に愛される学校づくりを目指してもらいたい。

○南さつま市の「飛び立て高校生事業」を利用したのアピールという意味で、近隣の高校に比べて活動が見えにくいのが実態と思われる。この事業との関係性はどのような形を取られているか。

●地域行事等への参加、ボランティア活動などは、かなりの頻度で行っているが、ここ1～2年は感染症の影響で地域行事のほとんどが中止されており、その意味でみなさんの目に届くことが少なくなっていると考えられる。感染症が収まれば、生徒の活躍の舞台も広がり、またそれを目にさせていただく機会も増えると思われる。ただし、地域の過疎化・高齢化にともなって、高校生への期待が極度に膨らんでおり、ボランティアや各種催事への生徒の参加依頼・要請が大量に学校に寄せられて、まさに「飽和状態」になっている。これらをすべて生徒に紹介し、学校が仲介して生徒を参加させることは実際問題として現実的ではなくなっており、ある程度こちらで取捨選択して、生徒の活動をコントロールしなければ、生徒たちの本分である学業に支障を来しかねないほどに高校生は忙しくなってしまうことも御理解いただきたい。生徒たちの負担とのバランスを配慮する必要がある上、特に普通科のみの本校の場合、何か地域との交流をするにしても本来の学業との関連性が

難しい。その意味でも、「露出が少なく、押し出しが弱い」と感じられるのは、市内にある他校と比較した場合の本校の特性から考えて当然である。

- 「飛び立て高校生事業」には、本校からは今年度「郷土の歴史研究」に関する活動を採用していただいている。周知については、例年は中学生を集めて事業報告会が行われているが、この二年間は感染症の影響で報告会は開催されておらず、動画提出による報告にとどまっている。その動画は市内の各中学校に配布されて、中学生は何らかの形で観てくれているはずである。

○小学校でもキャリア教育の必要性が唱えられ始めており、将来の高校選択に向けての意識付けや将来の職業について考えさせる機会を持ちたいという思いがある。小学校にも高校の情報をいただけるとありがたい。

- 「学校だより」は小学校にもお送りしているので、差し支えなければ学年の掲示板などに掲示するなどしていただければ、こちらとしても大変ありがたい。また、その他の情報提供についても、何か具体的なアイデアがあれば、実現の可能性はさておき、遠慮なく御相談いただきたい。中学校においても同様で、出前授業など、機会があれば是非お声かけいただきたい。

○また、災害時や不審者との遭遇時など、場合によっては加世田小児童が加世田高校に避難できれば非常に心強い。調整が必要なので、相談させていただければ大変ありがたい。

- 水害発生時など、加世田小児童の身に危険が迫っている際には、事前の調整の時間がないことも考えられる。高台にある本校に避難することで危険が回避できるのなら、その場の判断で受け入れるのは当然であると考え。実際、本校は南さつま市と提携し、市の指定二次避難所となっていることもあるので、万が一、近々にそのような危険な状況が発生した場合はそうしてもらって構わない。もちろん「万が一の際にはこのような形で」ということが事前に確認できていればそれに越したことはないので、具体的な形があれば、御相談いただきたい。

○加世田小周辺では、徒歩で通学する小・中学生や送迎の自家用車、単車・自転車通学の高校生が行き交い、先日は少しハッとする場面もあった。交通安全の呼びかけを高校生にもぜひお願いしたい。また、単車で通学する生徒はどの程度いるか。

- 交通安全には特に配慮して指導している。このような情報提供は大変ありがたい。今後もお気づきの点があればぜひ御教示いただきたい。単車通学生は、1年生が16歳になるに従って徐々に増加し、年度末には概ね全体の2割程度になるのが通例である。

○「毎日の補講・大量の宿題」と、勉強ばかりの学校というイメージを嫌がって加世田高校を選ばない中学生がいる。例えば、時代に即した補講体制の見直し等の予定はあるか。

- 「勉強が厳しい」という根拠のないイメージが、中学生が本校を避ける理由の一つになっていることは自覚している。ただ、こちらとしては、現状が「極端に勉強に厳しい」とは認識しておらず、宿題も決して多いとは考えていない。ただし、あくまでも、「高校生にとって普通のレベル」を維持することは必要であると考えており、中学生への説明でも「加世田高校では勉強はしないといけない。と言うより、高校は勉強しに行くところで、どこの高校に行っても高校生は勉強するのがあたりまえ。勉強なくていい高校があるなら、逆に教えて欲しい」という主旨の話をしている。補講の見直しについては時代の流れでもあるので、もちろん「明日にでも」という訳ではないが、検討していく時期が来ていることは自覚している。ただ、学校の判断だけで決められる訳ではないので、保護者の声などを聞きながらよりよい形を探っていくことになると考える。

○中学生の高校選びの要素の一つに「部活動の専門的な指導が受けられる」ということがある。ただ、職員だけですべての部活動の専門的な指導者を網羅することは現実的に難しいと思う。そこで、外部指導者の活用などの状況はどうか。また、部活動については、中学生との合同練習など、中学生が高校を身近に感じられるような取組を進めるのがいいと思われる。

- 現状、いくつかの部活動については、外部指導者の指導をいただいている。さらに、県の事業である部活動指導員の配置を受けている部もある。中学生との合同練習については、こちらもいくつかの部活動ではこれまでも実施している。指導者・中学生等、外から人を入れるにあたって感染症などへの配慮は当然必要だが、特に制度上の規制があるわけではないので、中学校の方からも部顧問レベルで御相談いただきたい。

○性的マイノリティへの配慮・制服の規程について教えて欲しい。

- 女子生徒のスラックス着用は任意に認めている。その他の点においても、「一定のきまりはあるが、不具合・不都合があれば遠慮なく相談しなさい」というスタンスで対応しており、申し出があれば、事情を聞き、状況に応じて柔軟に対応する姿勢で臨んでいる。